

チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26-203
TEL/FAX: 092-260-3989
E-mail: jimu@cher9.org



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.
106

島根セメイ国際シンポジウム・レポート

CONTENTS

第4回島根セメイ国際シンポジウムに参加して / 福島・関東への医療支援を始めます / 2017年度
総会報告 / 事務所移転のお知らせ / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのお知らせ /
編集後記



子どもたちの未来へ、希望の光を

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店 (支店番号201) (普) 7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店 (支店番号106) (普) 1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。
送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。

第4回島根セメイ国際シンポジウムに参加して

1月26日、島根大学医学部にて

CMN 理事 河上雅夫

いきさつは

昨年未だに島根大学医学部外科教授の野宗義博先生とお会いして、福島および関東での甲状腺検査についての意見をお聞きしたのですが、その後の理事会で野宗先生が参加される甲状腺検査をチェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)がその一部を支援することになりました。このことについては別記事で説明します。そして、それに加えて野宗先生が主催されている島根セメイ国際シンポジウムについて支援しようということになりました。

昨年はチェルノブイリ原発事故30周年で、ベラルーシでの国際会議にも私も清水一雄先生をはじめ専門家の方とともに参加してきました。日本国内でも、今回、島根大学での国際シンポジウムを「チェルノブイリ事故後30周年記念シンポジウム」としてウクライナから専門家を呼びたいとの話がありました。その先生の



左より山田英雄さん、ザドロージナ教授、小林祥泰先生

渡航費用をチェルノブイリ医療支援ネットワークが負担することになり、支援者という立場でシンポジウムに参加してきました。

参加者は

セメイというのはカザフスタンの都市で、旧ソ連時代のセミパラチンスク核実験場が近くにあります。野宗先生はセミパラチンスクでの検診も続けてあり、その拠点のあるセメイ市から3名の研究者を招へいし、ウクライナからは国立小児産婦人科研究所のザドロージナ教授をを招へい、

国内からは広島大学の星正治先生、藤本成明先生、長崎大学の七條和子先生、そして武市甲状腺クリニックの武市宣雄院長とCMNの医療顧問、山田英雄さんが登壇されました。

私たちは広島に集合し、宿

泊先の温泉津温泉・輝雲荘のマイクロバスで島根大学のある出雲市までを往復しました。この2日前には鳥取で大雪のために立ち往生する車が续出するニュースがありましたので大変心配しましたが、道路状

況には問題ありませんでした。

武市先生は97年の移動検診開始から毎年検診に参加されていましたが、広島武市クリニックには何度も訪問していました。久しぶりの再会で、車中ではいろいろな話で盛り上がりました。特に印象的だったのは、福島の甲状腺検査での、がん患者の男女比の問題です。一般的には甲状腺がんは女性に多く男性には少ないと言われています。ところが福島の甲状腺検査では男性の比率が比較的多いことが特徴的です。これについて、武市先生は「小児の場



往路で立ち寄った道の駅



シンポジウム会場の様子



広島大学、藤本成明先生



長崎大学、七條和子先生、右は野宗先生



広島大学、星正治先生

合は男女比にほとんど差がなく、年齢が上がることによって女性の割合が増える」ということです。長年、広島市の被爆者を診察してこられた武市先生ならではの見解だと思います。

旅館では、島根大学前学長で耕雲堂小林病院名誉院長の小林祥泰先生と、カザフからの研究者 3 名と野宗先生も合流しての夕食会となりました。その場に旅館の女将も一緒でしたが、流ちょうな英語であいさつされたのには驚きました。温泉津は石見銀山の外港として栄えたところで、一時は 20 万人もの人が生活していたということです。



山田英雄さん

シンポジウムは

シンポジウムでは、山口学部長の開会の辞に続いてセッション 1 では、星先生の司会により広島大学の

藤本先生、長崎大学の七條先生、星先生自身の講演がありました。ここではマウスを使った動物実験や内部被曝などがテーマとなっていました。



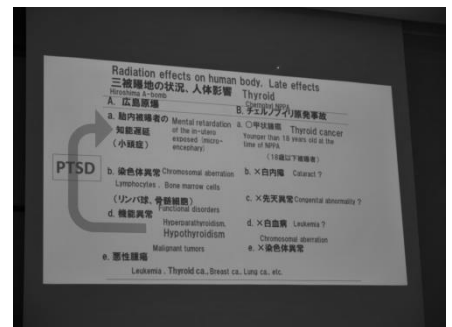
セメイ医科大学、アイゲリム先生

セッション 2 では司会が野宗先生に変わり、まず山田さんが講演されました。これまでのチェルノブイリ医療支援ネットワークの移動検診をたどりながら、ベラルーシにおける甲状腺内視鏡手術の説明をされています。次に、ウクライナからのタマラ・ザドロージナ教授が胎盤に蓄積する放射性物質についての講演をされました。続いて、セメイから 3 名の研究者によるセミパラチンスクでの核実験の影響に関する発表がありました。

さらに、野宗先生からは関東に

おける甲状腺検査についての発表がありました。その内容については省略しますが、いずれチェルノブイリ通信に同様の記事を掲載できるものと思います。最後に、武市宣雄医師による広島の被爆者とチェルノブイリ事故の被災者、福島県の甲状腺がん患者の比較を発表されました。その発表の中では 1998 年のミンスクでのシンポジウムの紹介もされ、私にとっても懐かしいものでした。

最後に、全員で記念撮影をしてシンポジウムは終了しました。



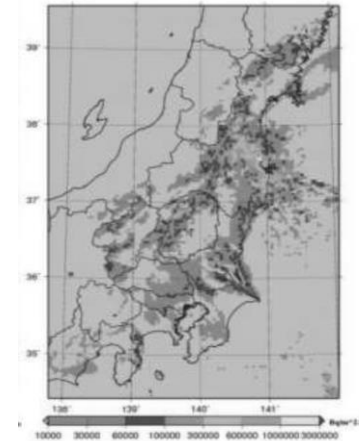
武市宣雄先生のスライドから

福島・関東への医療支援を始めます



Improved version
of the deposition scheme
+ new source term

(Katata et al., 2015)



2011年3月の福島第一原発事故発生以後、東日本への支援をどうするか模索してきました。これまでは東北で活動する団体への資金援助や、獨協医科大学福島分室の木村真三准教授を福岡にお招きして講演会を行ってきましたが、我々のチェルノブイリでの経験を福島でどう生かすかについては結論が出ていませんでした。

私たちは1997年から20年近くの甲状腺検査・医療支援を行っており、そこでの経験は他のどの団体も持っていないものです。福島第一原発事故発生直後からこの経験を生かせないものかと思っていましたが、現地で直接的な活動をするには距離の問題もあり無理がありました。また、保養を行う団体はいくつ

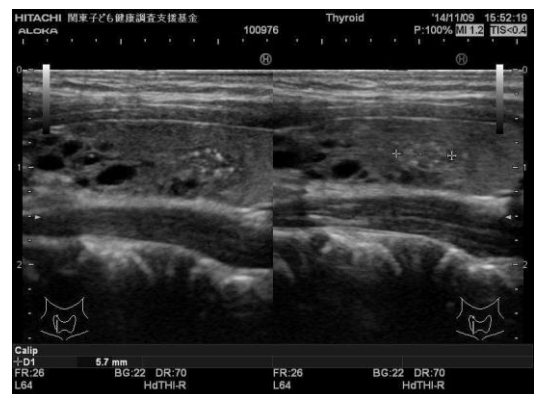
もありますが、私たちはベラルーシでの保養の経験から活動を医療支援にシフトしたという過去があり、やはり甲状腺検査に関する活動が必要であると認識していました。

福島では認定NPO法人「たらちね」が、また、周辺地域では常総生協を母体とした「関東子ども健康調査支援基金」をはじめいくつかの団体も自主的な甲状腺検査を行っています。その「たらちね」と「関東子ども健康調査支援基金」で検査を担当されている一人が、島根大学医学部教授の野宗義博先生です。野宗先生は2007年～2009年までの3回、私たちのベラルーシでの検診に参加されており、我々にはなじみの先生

です。

福島県においては福島県立病院を中心に事故当時0～18才だった児童に対して検診を行っているのですが、自主的な検診の必要性はそれほど大きくはありません。それに対して、周辺の県ではそのような体制がありません。そのために住民の間で不安が広がっており、本来は行政が行うところを市民団体の自主的な検診が続けられています。

そこで、昨年12月に広島で、





甲状腺検査中にビデオ映像を見せてリラックスさせる〈野宗先生のアイデア〉

今年1月22日には野宗先生に福岡に来ていただいて、福島・関東での検診活動について説明をしていただきました。その検診活動の特徴としては次のようなことです。

・ **検診結果は詳しく説明し、その場で誤解のないようしっかり理解してもらう**

→福島県の検診ではエコー検査を臨床検査技師が行っており、検査技師では患者に内容を説明する権限がなく、それが検診に対する不信感につながっている

・ **検診は必要な項目だけを楽しく行われるように工夫**

→福島県では臓器のサイズを計測するなど時間がかかり、不安感が増幅している

→検査中にマンガなどの映像を見せるなど楽しくなるような工夫をしている

・ **医療コンサルタント、健康相談なども担う**

→保護者の不安を取り除き、心をいやすため

・ **若い世代の育成**

→医学生、研修医をボランティアスタッフとして同行させ、将来のために育成する

私たちのベラルーシでの検診では、日本医科大学の学生が毎回同行して研修の機会となっていたことは NPO と大学の協業の例としてよく知られるところです。野宗先生の福島・関東への旅費は島根大学から支給されているそうですが、ボランティアスタッフとして参加する医

学生は自費参加されているそうです。検査の重要性と次世代の専門家の育成が必要だと理解している我々の支援の在り方として、このボランティアスタッフの交通費の一部を支援していきたいと思います。当初は年間16回分、48万円の予算を計上しています。

支援を受けた学生からは、検診についての報告をしていただくことになっており、チェルノブイリ通信の毎号にその記事を掲載できるものと思っています。専門家の目から見た福島第一原発事故の現状について、より詳しくお伝えできることになるでしょう。

(CMN 理事 河上雅夫)

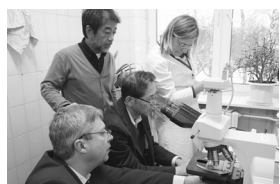
2017年度

総 会 報 告

2月 25日(土)、福岡市NPO・ボランティア交流センター(あすみん)セミナールームにて、2017年度通常総会を開催し、昨年度の事業報告・活動決算報告および、今年度の事業計画・活動予算、定款の変更についての協議、承認が行われました。前年度の事業報告および今年度の事業計画について簡単にご紹介させていただきます。

詳しい資料は団体ウェブサイトでご覧いただける他、必要な方には送付しますので事務局までお気軽にご連絡ください。→→→ http://www.cher9.org/kako_katudo.html

2016年度事業報告および2017年度事業計画



2016年度の海外支援事業としては、ベラルーシ共和国へ医療検診団・調査団を派遣し、甲状腺がん検診、甲状腺内視鏡手術等を実施しました。国内では、東日本大震災に対する支援事業の一環として、昨年につづき「広域被災者ネットワーク会議」に参加しました。また医療専門家を招いての講演会開催、会報発行等を通じ、ベラルーシやチェルノブイリ、フクシマ被災地域の現状を伝えました。その他、福祉工房「のぞみ21」商品やフェアトレード商品等の紹介・販売を行い、お買い物を通じた支援を呼びかけました。各事業の詳細については本紙バックナンバーにて報告していますので省略させていただきます。

各種事業を実施する上で、会員の皆さまをはじめ、多くの方からご協力、ご賛同を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。



2017年度も引き続き専門家との協業のもと、ベラルーシ共和国での医療活動を継続してまいります。また震災支援事業として、福島および関東圏での甲状腺検査のサポートを行います。必要に応じて現地を訪問し、情報収集と発信に努めます。

今後も被災地から必要とされる支援活動を展開し、会員の皆さま、支援者の皆さまへの説明責任を果たし、現地の様子と事業の成果をお伝えできるよう、スタッフ一同頑張っております。



＼ 事務所を移転します！ /



このたびチェルノブイリ医療支援ネットワークの事務所を福岡県古賀市から福岡市に移転することになりました。新事務所の住所と電話番号、メールアドレス、ウェブサイトURLは次のとおりです。

〒812-0013

福岡市博多区博多駅東2-5-11-5 F

■ TEL/FAX : 092-260-3989 (月～土曜日・9:00～16:00)

■ E-mail : jimu@cher9.org ■ URL : <http://www.cher9.org/>



2017年度組織運営体制

理事長	中山悠
副理事長	和田幸策
理事	河上雅夫、川原秀之、小川峰湖、平川可南子
監事	本田正之
事務局	川原秀之



総会での審議のようす

2016年度活動決算書(2016/1/1~12/31)及び2017年度活動予算書(2017/1/1~12/31)

(単位:円)

科目	2016年度決算		2017年度予算		
経常収益					
1. 受取会費	96,000	96,000	90,000	90,000	
2. 受取寄付金					
活動支援金	17,062,530		4,500,000		
のぞみ21カンパ	108,082		100,000		
雪だるま3号カンパ	74,500		100,000		
震災支援カンパ	442,698	17,687,810	600,000	5,300,000	
3. 事業収益(※1)					
のぞみ21支援事業	140,510		100,000		
震災支援事業	750		0		
フェアトレード事業	776,770	918,030	700,000	800,000	
4. その他収益(受取利息等)	33,025	33,025	10,000	10,000	
経常収益計			18,734,865		6,200,000
経常費用					
1. 事業費(※2)					
訪ベラ事業	2,544,902		3,029,712		
のぞみ21支援事業	319,021		272,386		
震災支援事業	208,681		727,160		
会報発行事業	1,343,940		1,002,259		
イベント企画・運営事業	830,476		19,453		
その他の情報提供事業	5,311		30,389		
フェアトレード事業	618,017	5,870,348	638,354	5,719,713	
2. 管理費					
人件費	5,833		14,751		
その他経費	197,648	203,481	184,536	199,287	
経常費用計			6,073,829		5,919,000
当期経常増減額			12,661,036		281,000
税引前当期正味財産増減額			12,661,036		281,000
法人税、住民税及び事業税			81,000		81,000
当期正味財産増減額			12,580,036		200,000
前期繰越正味財産額			7,868,426		20,448,462
次期繰越正味財産額			20,448,462		20,648,462

※1) 各事業収益の内訳は次のとおりです。【のぞみ21支援:のぞみ21商品売上】【震災支援:缶バッジ売上】【フェアトレード:コーヒー・紅茶売上】

※2) 人件費(給料手当、雑給、法定福利費、支払報酬)を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。



たくさんのあたたかいご支援を、本当にありがとうございます！
チェルノブイリおよび東日本大震災被災者支援のために大切にに使わせていただきます。

お名前の掲載について

2016年11月1～2017年1月31日までに募金をして下さった方、ならびに商品購入を通じて活動を支援して下さった方です。同封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ○印をして下さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いします。

なお郵便振替以外からのお振込み等については、許可が確認できなかったものとして、掲載しておりません。募金者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

マンスリーサポーター募集中！

月々300円からの募金で気軽に、コツコツチェルノブイリ支援をはじめませんか？マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金額がゆうちょ銀行総口座から自動的にCMNへ寄付されます。「毎回振り込みに行く手間を省きたい」「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にピッタリです。お申込、お問合せは事務局までお気軽にどうぞ！

事務局からのお知らせとお願い

振込用紙は毎号同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎号同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要の方は処分をお願いいたします。

住所を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

(順不同・敬称略)

相川美智子 浅原望樹 伊藤金光 稲毛修子 井上泰子 小野直子 梶原孝子 川崎巳代治 川崎幸子 佐藤和子 佐藤久美 高橋武三 田中直子 種和子 中島乃婦子 中村幸枝 西嶋香穂子 野中孝子 野村文子 林田英明 引田良子 榊田千絵 増田朋子 松井由美子 丸山さより 村上和代 めぐみ保育園職員一同 森悠子 安田恵美子 矢野和代 吉田久美子 吉元京子

<都道府県別 / 計86名 (匿名含む) >

【青森県】1名	【新潟県】1名	【東京都】1名	【静岡県】1名
【愛知県】1名	【三重県】1名	【兵庫県】3名	【鳥取県】2名
【島根県】2名	【広島県】6名	【山口県】3名	【愛媛県】1名
【福岡県】46名	【佐賀県】1名	【熊本県】5名	【大分県】7名
【宮崎県】1名	【鹿児島県】3名		

●マンスリーサポーターの皆さん / 計120名 (匿名含む)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黒慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 齊藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 洲田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 矢野和代 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美紗子 渡邊久美子 渡邊真志子

●皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

●いつも少額ですが、お役立て下されば幸いです。●チェルノブイリ支援がいつの間にかフクシマ支援につながっているような、そんな思いがします。●息の長い活動、感謝しています。●少しでもお役に立ちますように。●2017年もよろしくお祈りします。●息長い活動に感謝しています。●原発のない世界を願っています。●コーヒー、紅茶をお友達に紹介しました。香りが高く、とてもおいしいと喜ばれました。●福島から5年が過ぎ、これから甲状腺がんなどの多発がチェルノブイリ並みに増加していくのではと心配です。●いつもお世話になります。気まぐれなカンパですみません。●息の永い支援が少しずつ花開き実を結んでゆく姿を実感させてもらってます。●2017年が笑顔あふれる日々となります様に祈ります。●できるだけ続けたいです。わずかですが。●原発がなくなりますように！●ささやかな支援ですが、カニ型支援をしていこうと思います。

編集後記 3月になり春の訪れを感じている今日この頃です。道行く人の服装も明るい色彩となり、自然界も啓蟄を迎え春の息吹を感じています。チェルノブイリ原発事故から今年の4月で31年、福島原発事故から6年。忘れてはいけない、いつまでも。(H.K)

